



「記念物めぐり—茨城県版—」(第3回)
—国指定史跡「瓦塚窯跡」と「佐久良東雄旧宅」—

日本ウオーキング協会 専門講師 堀野 正勝

記念物巡りの第3回は、前回の石岡市周辺の続きとして、旧八郷町(柿岡)周辺の史跡を巡ります。

(国指定史跡「瓦塚窯跡」)平成 29年 10月 13日 指定

瓦塚窯跡は、主に奈良時代の741(天平 13)年、現在の石岡市国府周辺に国分寺、国分尼寺等が建立された(第2回記述のとおり)際に、その屋根に葺く瓦類を製造した窯跡です。1937(昭和 12)年には、茨城県の史跡に指定されました。



「瓦塚窯跡」

(県指定記念物「佐久の大杉」)昭和 16年 3月 16日指定

佐久の集落中央に鹿島神社が鎮座します。大杉はこの神社のご神木であり、「佐久の大杉様」と呼ばれています。伝承によると、大化の改新(645年)の頃、大和朝廷からこの地に派遣された国司の後裔(こうえい)がお手植えされた杉といわれています。室町時代の1427年(応永 34年)11月に神社が創建されたころ「すでに千年に近い杉」といわれ、1704年(元禄 16年)に武甕槌尊(たけみかづちのみこと)を迎え、鹿島神社となったときにはすでに「千年を越す巨木であった」といわれたことが、今も語りつがれています。



「佐久の大杉」
樹高:約 29m、
幹回り:約 9m、
樹齢:推定 1300年以上

(国指定史跡「佐久良東雄旧宅」)昭和 19年 3月 7日指定

石岡市内には前記の史跡以外に、19世紀、幕末の動乱期に和学を修め、熱烈な愛国者であった勤王歌人・佐久良東雄の生家が指定されています。

佐久良東雄は、桜田門外の変後、幕吏に捕えられ、獄死。49歳の若さでした。主屋・長屋門・土蔵そして生垣を持つ屋敷構えは、いかにも旧家らしい風格を感じさせます。



佐久良東雄の旧宅(長屋門)

(県指定史跡「丸山古墳」)昭和 27年 12月 18日 指定

丸山古墳は、石岡市柿岡の高友丘陵の中央に存在する古墳で、全国でも珍しい「前方後方墳」という形をしています。

昭和27年(1952)に発掘調査が行われ、鏡や剣、槍、刀、玉と豊富な副葬品が発見されました。造られたのは古墳時代前期(およそ1700~1600年前)で、この地域を治めた一番初めの王の墓にあたります。



「丸山古墳」

(県指定史跡「石岡の一里塚」)昭和 33年 3月 12日指定

市内の泉町通りから泉橋を過ぎると、道路両側に高さ約3mの大きな塚が見えます。これが石岡の一里塚です。一里塚は主要街道の一里ごとに設けられた一種の路程標です。慶長9年(1604)頃、江戸幕府が江戸日本橋を起点として、東海・東山・北陸の三道の両側に築いた塚を指したのが始まりといわれています。

石岡の一里塚は、旧水戸街道の府中(石岡)から長岡に通じる街道の両側に残るもので、築造当時を偲ばせ、江戸時代の交通政策を知る上で重要な史跡です。



「石岡の一里塚」

